

# 日産のサステナビリティ

## サステナビリティ戦略

### 日産の考えるサステナビリティ

日産は、コーポレートパーパス「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける」の実現に向け信頼される企業として、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、優れた価値をすべてのステークホルダーに提供します。

グローバルなあらゆる事業活動を通じて企業として成長し、経済的に貢献すると同時に、社会が直面する諸課題の解決に貢献することは日産の使命です。その使命を果たすため、日産として取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定し、それぞれの課題に環境と社会性の側面に対応する2030年までの行動計画を策定しました。「ニッサン・グリーンプログラム2030(NGP2030)」、「ニッサン・ソーシャルプログラム2030(NSP2030)」という2つの行動計画により、日産のサステナビリティの目標を明確に示し、グローバルで取り組みを強化していきます。この行動計画を通じて長期ビジョン「Nissan Ambition 2030」\*1を具現化します。

日産は、お客さま、株主、従業員、地域社会などすべてのステークホルダーから必要とされる、真にサステナブルな企業となることを目指し、よりクリーンで、安全で、インクルーシブな、誰もが共生できる世界の実現を推進していきます。

### 社会の課題分析とマテリアリティの特定

日産は、ステークホルダーの皆さまの関心、ならびに技術革新などの最新動向を踏まえながら、サステナビリティ戦略を策定し、活動を推進しています。戦略策定にあたり、日産の優先課題を明確に示すため、リスクや機会分析を踏まえた会社全体として取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を2022年に特定しました。

特定にあたりダブルマテリアリティの考え方を取り入れ、これまでも投資家からの関心が高かった「社会・環境が日産へ与えるインパクト(財務的影響)」の視点に「日産が社会・環境へ与える影響や価値」の新しい見方を加えた2側面により、企業活動とサステナビリティを相互に検討し、日産のつくり出す価値と取り組む優先順位を提示しています。

このように、日産としての方向性をより詳細にステークホルダーにお伝えすることで、自動車セクターのみならず、さまざまな協働機会の拡大や信頼関係の向上を図り、さらなる取り組み推進につなげたいと考えています。

なお、2024年度には、社内外の状況を踏まえてマテリアリティの名称、位置づけ、重要と考える理由について見直し、一部更新を行いました。

\*1 長期ビジョン「Nissan Ambition 2030」の詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/COMPANY/PLAN/AMBITION2030/>

## マテリアリティ特定のプロセス

### STEP1.社会・環境課題の明確化

定期市場動向分析、ステークホルダー・投資家の皆さまとの対話より得られた社会からの期待値、グローバルスタンダード、国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）、SDGs、世界経済フォーラム（WEF）発行のリスクレポートなどからグローバルなアジェンダを明確化。

### STEP2.自動車セクターおよび日産の重要課題特定

コーポレート長期ビジョンにより実現する世界と、そこで果たすべき自動車セクターの役割という視点からリスクと機会を分析することで、日産にとっての課題を特定。

### STEP3.マテリアリティの優先度整理

縦軸・横軸の2側面からリスクと機会で優先度の整理を実施し、日産のつくりだす価値と今後さらに強化して取り組むべき課題をマトリックス型により整理。有識者レビューを行い、フィードバックを反映。

### STEP4.経営会議および取締役会にて合意

特定したマテリアリティは、各項目の設定理由や背景を含め経営会議および取締役会へ報告し、合意を得て決定。

## 日産のマテリアリティマトリックス

21項目のマテリアリティを特定し、その中でも日産が社会・環境へ与える価値・インパクトが最も大きい縦軸最上段の項目、および社会・環境から日産へ与えるインパクトが最も大きい横軸最右列の項目を最重要13項目としています。

特定された各項目は、事業活動へ織り込んでいくことで協働機会を拡大し、より一層充実した活動推進につなげ、コーポレートパーパスを具現化していきます。



担当役員メッセージ

日産のサステナビリティ

重要と考える理由

| マテリアリティ            | 重要と考える理由                                                                                                                                                                                                                | 日産の取り組み                                               | E | S | G |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|---|---|---|
| ガバナンス、法規制、コンプライアンス | コーポレートパーパスや行動規範に基づき、高い倫理観と透明性および強固な基盤を備えたガバナンスを通じて、最大限の誠実性を持って事業運営を行う。また法規制を遵守し人々と社会に対し敬意と誠実さを持ち行動する。                                                                                                                   | ・コーポレートガバナンス(P121)<br>・コンプライアンス(P134)                 |   |   | ✓ |
| 人々の自由な移動を実現        | 運転支援技術やコネクテッドカーシステムなどの新しいモビリティ技術やサービスをより多くの人に提供し、より安全で、よりパーソナライズされ、誰もが自由に移動できるインクルーシブな社会を実現する。                                                                                                                          | ・安全(P072)                                             |   | ✓ |   |
| 人権                 | すべての従業員が個人の尊厳と人権を最大限に尊重する組織を醸成する。また国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」を参照した社内倫理基準に基づき行動する。特に、人権尊重の6つの重点分野*における行動を徹底する。<br>*6つの重点分野：1.従業員の労働環境、2.サプライヤーの労働環境、3.製品の安全性とAI、4.プライバシーと情報セキュリティ、5.ビジネスパートナーの労働環境、6.コミュニティと環境への影響（先住民への影響も含む） | ・人権(P066)<br>・従業員の人権(P093)                            |   | ✓ |   |
| 電動車の拡充と多様なニーズへの対応  | 電動車ラインナップの拡充、バッテリーと車両の技術革新、クルマの多様な使い方を可能にするエコシステム構築により、カーボンニュートラル実現を目指す。                                                                                                                                                | ・バリューチェーンでの活動実績－商品(P034)                              | ✓ |   |   |
| 再生可能エネルギー          | 国や自治体との協働や、さまざまな業界団体との連携を通して、CO2削減に向けた再生可能エネルギーや代替燃料の使用を推進する。EVバッテリーの循環利用などの4R*の取り組みやV2Xの活用を通し、エネルギーマネジメントで社会課題の解決を継続する。<br>*4R：バッテリーの再利用、再製品化、再販売、リサイクル                                                                | ・バリューチェーンでの活動実績－商品(P034)、企業活動(P044)、関連パートナーとの連携(P059) | ✓ |   |   |
| クルマの安全性            | 先進の運転支援技術をより多くのお客さまに提供することで、日産車のかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」実現を目指す。                                                                                                                                                 | ・安全(P072)                                             |   | ✓ |   |
| クリーンなエミッション        | 「大気並みにクリーンな排出ガス」とその他のクルマから排出されるさまざまなエミッション（粉塵、マイクロプラスチックなど含む）のクリーン化を目指す。                                                                                                                                                | ・バリューチェーンでの活動実績－商品(P034)、企業活動(P044)                   | ✓ |   |   |
| プライバシー&データ保護       | データ保護およびプライバシー権の保護に取り組み、適切なセキュリティ対策を講じてステークホルダーの個人情報を守り、新しい技術とセキュリティリスクを考慮したデータの安全な取り扱いに責任を持つ。                                                                                                                          | ・プライバシー&データ保護(P133)                                   |   |   | ✓ |
| 持続可能なコミュニティの共創     | 災害時の復旧支援や人道支援に加え、商品や技術、サービス、ノウハウを通じた社会変革への取り組みによりコミュニティの発展に貢献する。                                                                                                                                                        | ・バリューチェーンでの活動実績－商品(P034)<br>・地域社会(P089)               | ✓ | ✓ |   |
| 製品品質               | デザイン、性能、化学物質管理および車室内空質向上などの製品品質向上により、より安心・快適で使いやすいモビリティを提供する。                                                                                                                                                           | ・バリューチェーンでの活動実績－商品(P034)<br>・品質(P075)                 | ✓ | ✓ |   |
| サステナブルなサプライチェーンの構築 | 取引先との協働により、「日産取引先サステナビリティガイドライン」に基づき、サプライチェーンにおける環境や人権問題への適切な対応と責任ある調達を実践する。これによりお客さまに安定的にクルマを提供するとともに、社会や法規が求める説明責任を果たす。                                                                                               | ・バリューチェーンでの活動実績－関連パートナーとの連携(P060)<br>・責任ある調達(P084)    | ✓ | ✓ |   |
| サステナブルマテリアルの拡大     | サーキュラーエコノミーを目指し、持続可能な資源利用のため、リペア/リユース/リビルト/リサイクルの推進、循環性や倫理性に配慮したマテリアルの使用など、サステナブルなクルマ作りを追求する。                                                                                                                           | ・バリューチェーンでの活動実績－企業活動(P044)                            | ✓ |   |   |
| 人財育成               | 人財育成プログラムを提供し、働きやすい職場環境を整備することで従業員が能力を最大限に発揮できることを目指す。                                                                                                                                                                  | ・従業員の能力開発(P109)                                       |   | ✓ |   |

E：環境、S：社会性、G：ガバナンス

## 2030年に向けたサステナビリティの取り組み

特定したマテリアリティに基づき、中期環境行動計画「ニッサン・グリーンプログラム2030 (NGP2030)」と社会性に関する行動計画「ニッサン・ソーシャルプログラム2030 (NSP2030)」を2023年度より実行しています。「NGP2030」および「NSP2030」では、活動領域ごとに2030年の目標、指標などを設定し、グローバルで取り組みを推進します。これらの取り組みを通じて、持続可能なビジネスの実現を目指し、安全安心なまちづくりや社会の発展、豊かな自然と生態系の回復に貢献していきます。

### ・「NGP2030」

私たちは環境理念「人とクルマと自然の共生」の実現のため、2002年より中期環境行動計画NGPを策定してきました。第5世代となる「NGP2030」では、人々の生活が、持続可能で自然と調和できる社会創りを目指しています。具体的には1.5℃シナリオの加速やサーキュラーエコノミーへの移行など、環境負荷を低減し、機会を最大化する環境の取り組み導入に注力します。「気候変動」「資源依存」「大気品質と水」を重要課題として設定し、さらに活動の基盤となるトレーサビリティの強化に取り組みます。

気候変動においては、日産は2050年までにクルマのライフサイクル全体におけるカーボンニュートラルを実現する目標を設定しています。2030年代早期より、主要市場で投入する新型車をすべて電動化車両とすることを目指しており、「NGP2030」の促進が、カーボンニュートラルの達成につながると考えています。また「Just transition (公正な移行)」の考えを実践し、カーボンニュートラルの実現を目指しています。

## 「NGP2030」一覧表

| 重要課題          | 領域                                      |                                 | 2030年目標                                                               | 関連するマテリアリティ                                                                                                                                                      | 主に貢献するSDGs                                                                            |
|---------------|-----------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 気候変動          | CO <sub>2</sub> 排出の削減<br>(基準2018年)      | ライフサイクル(t-CO <sub>2</sub> /台数)  | グローバル -30%                                                            | ・電動車の拡充と多様なニーズへの対応<br>・再生可能エネルギー<br>・サステナブルなサプライチェーンの構築<br>・持続可能なコミュニティの共創<br>・サステナブルマテリアルの拡大<br>・エネルギー効率の追求<br>・ライフサイクルマネジメント<br>・物理的ハザードへの対応<br>・生態系サービスと生物多様性 |    |
|               |                                         | クルマの利用(g-CO <sub>2</sub> /km)   | グローバル -32.5%<br>4地域*1 -50%                                            |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
|               |                                         | 生産(t-CO <sub>2</sub> /台数)       | グローバル -52%                                                            |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
|               |                                         | サプライヤー                          | ライフサイクル目標の達成を目指す                                                      |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
|               |                                         | 物流                              |                                                                       |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
|               |                                         | R&D拠点                           |                                                                       |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
|               |                                         | オフィス                            |                                                                       |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
| 販売店           |                                         |                                 |                                                                       |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
| 資源依存          | 材料資源                                    | サステナブルマテリアルの拡大<br>(重量ベース)       | 40%(日本、米国、欧州、中国)                                                      | ・電動車の拡充と多様なニーズへの対応<br>・再生可能エネルギー<br>・サステナブルマテリアルの拡大<br>・サステナブルなサプライチェーンの構築<br>・持続可能なコミュニティの共創<br>・生態系サービスと生物多様性                                                  |    |
|               |                                         | 廃棄物/埋め立ての管理                     | 低水準の維持                                                                |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
|               | クルマの活用                                  | エネルギーマネジメント機能の拡大                | EVへの搭載率100%(日本、米国、欧州)                                                 |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
|               | 大気品質と水                                  | 水                               | 生産拠点での<br>水リスク管理の強化                                                   |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
| 生産拠点での使用量の削減  |                                         |                                 |                                                                       |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
| 生産拠点での排水の水質管理 |                                         |                                 |                                                                       |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
| 大気品質          |                                         | クルマからのエミッション削減<br>(テールパイプ以外も含む) | 技術の開発と適用                                                              |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
|               |                                         | 生産拠点でのVOC管理                     | 活動の継続(塗装)                                                             |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
|               |                                         | 車室内空質の管理                        | 車室内VOCの日産基準の遵守                                                        |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
| 基盤            | 責任ある調達の実施                               |                                 | サプライチェーンのリスクマネジメントの実施                                                 | ・ガバナンス、法規制、コンプライアンス<br>・サステナブルなサプライチェーンの構築<br>・ステークホルダーとの エンゲージメント                                                                                               |  |
|               | バリューチェーン情報の統合管理および<br>説明責任の確保(トレーサビリティ) |                                 | ・企業活動/部品製造からのカーボンフット<br>プリント等の情報管理システムの構築/<br>運用<br>・サプライチェーン情報の信頼性向上 |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |
|               | 環境ガバナンスの強化                              |                                 |                                                                       |                                                                                                                                                                  |                                                                                       |

\*1 4地域：日本、米国、欧州、中国

## ・「NSP2030」

日産は社会性の取り組みを推進することにより、「人」を中心とした企業になることを目指し、従業員をはじめ社会におけるさまざまな「人」へ価値を提供していきます。企業としての責任を果たすとともに、日産らしさを追求し社会とともに成長していくことで、企業価値の向上と社会価値の創造を目指します。人財はビジネスとそのプロセス全体を通じて最も重要な要素だと考えています。「NSP2030」では、人事4領域を含めた9領域を重点領域と設定し、2030年の目標を定義しました。

また、従業員、パートナー、サプライヤー、お客さま、地域社会などさまざまなステークホルダーを含めた人権の取り組みを引き続き推進、強化していきます。

## 「NSP2030」一覧表

| 領域 |                        | 2030年目標                                                                                  | 関連するマテリアリティ                       | 主に貢献するSDGs                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 人権 | 安全                     | 運転支援技術やコネクテッドカーシステムなどの新たなテクノロジーに投資することによって、より安全で、効率的で、そしてより一層パーソナライズされたモビリティソリューションを創造する | ・クルマの安全性<br>・人々の自由な移動を実現          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|    | 品質                     | トップレベル品質*1、品質不具合ゼロ、コンプライアンス問題ゼロを達成する                                                     | ・製品品質                             |                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|    | 知的財産                   | 他社とともに知的財産活動を推進し、イノベーションを促進することにより、社会課題の解決に貢献する (IPエコシステム)                               | ・クルマの安全性<br>・人々の自由な移動を実現<br>・製品品質 |                                                                                           |
|    | 責任ある調達                 | 「人権侵害ゼロ」を目指して、サプライチェーンにおける人権デューディリジェンスの仕組みを構築する                                          | ・サステナブルなサプライチェーンの構築               |        |
|    | 地域社会                   | 日産らしさを活かして社会課題を解決するとともに、次世代の子どもの可能性を広げる                                                  | ・持続可能なコミュニティの共創                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|    | Power of employees     | 従業員一人ひとりが自信を持ち、支えられ、自分らしさを発揮できるような働き甲斐のある職場環境を築くことで、従業員の能力が最大限に発揮できることを目指す               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|    | 従業員の人権                 | 人権尊重を通じた「人を中心とする企業文化」の実現                                                                 | ・人権                               |                                                                                                                                                                                                                                                         |
|    | ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン | 一人ひとりの個性を尊重し、インクルーシブでワクワクする日産の実現                                                         | ・DEI (多様性、公平性、包括性)                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|    | 従業員の能力開発               | 高いスキルとモチベーションを持った従業員の育成                                                                  | ・人財育成                             |                                                                                                                                                                                                                                                         |
|    | 労働安全衛生                 | 従業員が安全・安心・健康に働くことができ、活気ある職場の実現                                                           | ・ウェルネス & 労働安全衛生                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

\*1 製品品質、セールス&amp;サービス品質において各市場にてトップ3になる

## サステナブル・ファイナンス・フレームワーク

日産はコーポレートパーパス「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける」の実現に向け、サステナビリティを事業の中核として位置づけ、グローバルな事業活動を通じて企業として成長し、社会が直面する諸課題の解決に貢献することを目指しています。

その取り組みの一環として、日産はサステナビリティの推進をより一層強化するために必要な資金調達可能にするサステナブル・ファイナンス・フレームワーク<sup>\*1</sup>を設定しました。本フレームワークは、グリーンボンド原則(GBP)2021、ソーシャルボンド原則(SBP)2023、およびサステナビリティボンド・ガイドライン(SBG)2021、ならびにグリーンローン原則2021、およびソーシャルローン原則2023に適合しており、その適合性については、独立した外部機関であるMoody's Ratingsより、セカンドパーティ・オピニオン<sup>\*2</sup>を取得しています。初めての資金調達となるシンジケーション方式でのグリーンローン契約は2022年11月に締結<sup>\*3</sup>されました。また、2番目の資金調達となる2023年1月および2月に発行した、個人投資家向け社債(愛称: サクラ[SAKURA]債)と機関投資家向け社債は、日産のフレームワークに定義された適格なグリーン

プロジェクトおよびサステナビリティプロジェクトに全額充当しました。<sup>\*4</sup> 本フレームワークを通じて調達した資金は、バッテリーを含む電動車両の開発や生産、EVエコシステム・スマートシティの実現に向けた技術開発やインフラ整備、より安全で持続可能なモビリティの開発など、幅広い取り組みに充当されています。今後も日産は、サステナビリティの推進を通じて、ステークホルダーの皆さまに優れた価値を提供し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。なお、資金調達実績の詳細はサステナビリティボンドレポートを参照ください。<sup>\*5</sup>

## 日産フィナンシャルサービスによるグリーンボンド発行

日産フィナンシャルサービスは、2024年3月に国内機関投資家向けに100億円のグリーンボンドを発行し、資金調達を完了しました。このグリーンボンドは、サステナブル・ファイナンス・フレームワーク策定後、日産グループ販売金融関連会社として初めての社債発行による資金調達であり、ゼロ・エミッション車を対象とする販売金融債権に資金を活用することで、販売金融事業を通じた日産グループの電動車両普及を支援します。なお、日産フィナンシャルサービスによるグリーンボンドレポートを日産フィナンシャルサービスのウェブページ上で公開しています。詳細についてはウェブページをご参照ください。<sup>\*6</sup>

## サステナビリティ推進のガバナンス

「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける」というコーポレートパーパスのもと、日産はサステナビリティを中核に据えた事業活動を行っています。2021年度から経営層の長期インセンティブ報酬において、サステナビリティに関する評価指標を新たに追加しました。短期的な業績目標達成のみならず、当社の中長期的な企業価値および社会価値を向上させ、サステナブルな企業となるための取り組みの成果を報酬に反映させることで、経営層のサステナビリティへのコミットメントを明確にしています。

サステナビリティ戦略の目標設定や進捗確認など具体的な活動の社内横断的な管理については、グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティ(GSSC: Global Sustainability Steering Committee)<sup>\*7</sup>にて議論しています。一方、環境課題についてはグローバル環境委員会(G-EMC: Global Environmental Management Committee)<sup>\*8</sup>にて決議しています。環境、社会性ともに、重要な論議はエグゼクティブ・コミッティ(EC: Executive Committee)および取締役会へ提案・報告されます。

<sup>\*1</sup> 日産自動車・販売金融関連会社 サステナブル・ファイナンス・フレームワーク原本(英語) [https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE\\_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-and-Nissan-Sales-Finance-affiliates-Sustainable-Finance-Framework\\_en.pdf](https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-and-Nissan-Sales-Finance-affiliates-Sustainable-Finance-Framework_en.pdf)  
参考和訳 [https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE\\_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-and-Nissan-Sales-Finance-affiliates-Sustainable-Finance-Framework\\_jp.pdf](https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-and-Nissan-Sales-Finance-affiliates-Sustainable-Finance-Framework_jp.pdf)

<sup>\*2</sup> セカンドパーティ・オピニオン原本(英語) [https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE\\_FINANCE/ASSETS/PDF/Second\\_Party\\_Opinion\\_en.pdf](https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Second_Party_Opinion_en.pdf)  
参考和訳 [https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE\\_FINANCE/ASSETS/PDF/Second\\_Party\\_Opinion\\_jp.pdf](https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Second_Party_Opinion_jp.pdf)

<sup>\*3</sup> 詳細はこちらをご参照ください。 <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-48b4dcee3ca553fae7e18a40fe024c80-221130-01-j>

<sup>\*4</sup> 詳細はこちらをご参照ください。 <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-852a2a2cb9af6879ff7b8333991e25d8-230120-02-j>

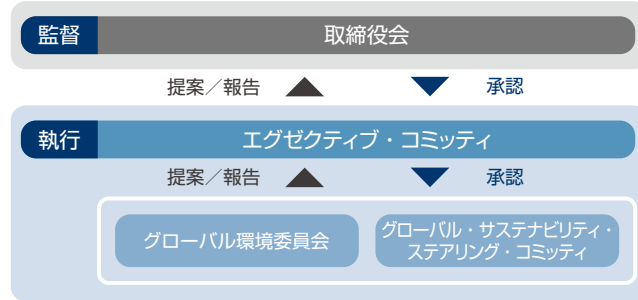
<sup>\*5</sup> 日産自動車株式会社サステナビリティボンドレポート原本(英語) [https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE\\_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-SBR-Mar2024\\_en.pdf](https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-SBR-Mar2024_en.pdf)  
参考和訳 [https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE\\_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-SBR-Mar2024\\_jp.pdf](https://www.nissan-global.com/JP/IR/STOCK/SUSTAINABLE_FINANCE/ASSETS/PDF/Nissan-SBR-Mar2024_jp.pdf)

<sup>\*6</sup> 株式会社日産フィナンシャルサービス グリーンボンドレポート [https://www.nissan-fs.co.jp/information/closing-of-accounts/pdf/nfs\\_greenbond\\_report.pdf](https://www.nissan-fs.co.jp/information/closing-of-accounts/pdf/nfs_greenbond_report.pdf)

<sup>\*7</sup> グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティの詳細はこちらをご参照ください。 [>>>P064](#)

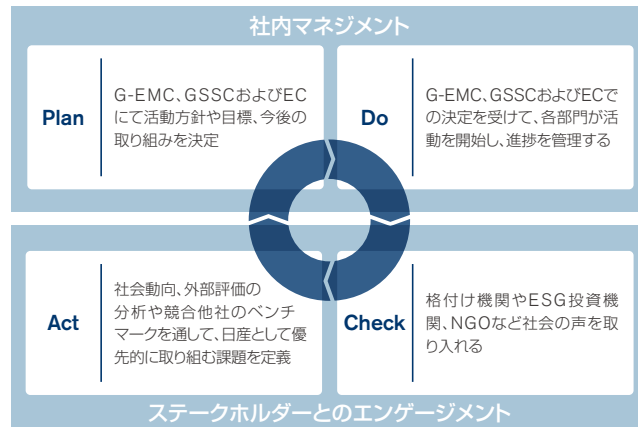
<sup>\*8</sup> グローバル環境委員会の詳細はこちらをご参照ください。 [>>>P016](#)

## サステナビリティ戦略に関する意思決定プロセス



各領域でPDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルを回すことで、サステナビリティパフォーマンスのさらなる向上を追求しています。

## PDCAサイクル



## 経営層の役割と評価

当社は2021年度より、長期インセンティブ報酬のひとつである業績連動型インセンティブ(金銭報酬)にサステナビリティに関連する評価指標を組み込むことで、中長期的な企業価値および社会価値の向上を目指してきました。<sup>\*1\*2</sup>

2024年度には指標および配分の見直しを行い、一層の取り組み強化を図りました。

## ■ 環境課題への対応：

旧)2021年度～2023年度

カーボンニュートラルに関わる取り組みを評価する外部指標(配分5%)

新)2024年度～

バリューチェーン全体をカバーする7領域におけるCO<sub>2</sub>排出削減量に基づくパフォーマンススコア(配分10%)

## ■ 社会課題への対応：

旧)2021年度～2023年度

人権尊重に関わる取り組みを評価する外部指標(配分5%)

新)2024年度～

DEIに関するグローバル従業員サーベイのスコア(配分10%)

## 「国連グローバル・コンパクト」に署名

日産は国際的なガイドラインや協定に積極的に参画しており、国際的なポリシーや基準を尊重して事業活動を行っています。

日産は、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」に、2004年から参加しています。日産では、国連グローバル・コンパクトの10原則に基づくさまざまな活動を一層強化するために、サステナビリティマネジメントを進めています。<sup>\*3</sup>

**WE SUPPORT**



<sup>\*1</sup> 報酬制度の評価指標に関する詳細は2024年度有価証券報告書(P79)をご参照ください。 [https://www.nissan-global.com/JP/IR/FINANCIAL\\_RESULTS/ASSETS/FR/2024/PDF/fr2024.pdf#page=82](https://www.nissan-global.com/JP/IR/FINANCIAL_RESULTS/ASSETS/FR/2024/PDF/fr2024.pdf#page=82)

<sup>\*2</sup> 報酬委員会に関する詳細はこちらをご参照ください。 >>>P126

<sup>\*3</sup> 国連グローバル・コンパクトに関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://unglobalcompact.org/>

## ステークホルダーエンゲージメント

### ステークホルダーとの対話

日産では、日産の事業が存続するうえでかわりのある個人または団体をステークホルダーと位置づけています。

日産は、企業活動と社会的要請のベクトルを一致させた経営を目指しており、そのためにステークホルダーの声に耳を傾け、信頼関係を構築しながら、社会の声を企業活動に反映させることが重要だと考えています。ステークホルダーとの対話を図る多様な機会を設けることで、オポチュニティとリスクの芽を見いだすことが可能になります。こうした対話を本社はもちろん、事業所や海外拠点においても実施し、確実に社内フィードバックする体制を構築しています。

### 日産を取り巻くステークホルダーとの対話の機会



| ステークホルダー              | ステークホルダーとの対話の機会                                                                              | ステークホルダーの関心事、主なテーマ                           | 2024年度の主な取り組み                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| お客さま                  | 問い合わせ窓口、ディーラー窓口、ウェブサイト、ショールーム、イベント、お客さまアンケート、TV・雑誌・SNSなどのメディア、オーナーズミーティング、アフターサービス、メール配信サービス | ・製品やサービスの品質<br>・お客さまへのサポート                   | ・お客さま相談室対応(約20万件・日本) (P076)<br>・Quick VOC (P080)                                                                                                                                                                                                               |
| 従業員                   | 問い合わせ窓口(社内通報制度)、イントラネット、社内イベント、面談、各種アンケート(調査)                                                | ・会社の業績や課題<br>・社内ダイバーシティ<br>・職場環境<br>・キャリア、教育 | ・社長講話<br>・ECメンバーと部長層によるミーティング<br>・DEI Fireside Chat(P099)<br>・業績評価面談<br>・グローバル従業員サーベイ (P092)<br>・労働組合と人権に関する対話の実施 (P071)                                                                                                                                       |
| サプライヤー・ディーラー          | 定期的な会議、問い合わせ窓口、説明会、イベント、各種ガイドライン、ウェブサイト                                                      | ・公正な取引<br>・日産のサステナビリティ方針や中期経営計画、購買方針         | ・サプライヤー環境活動説明会 (P060)<br>・生産情報連絡会(月次) (P087)<br>・日産/パートナーズカンファレンス(購買方針説明会を含む) (P087)<br>・Nissan Global Innovation and Quality Award(P087)<br>・人権ホットラインの運用 (P085)<br>・日産グリーンショップ認定(日本) (P017)<br>・日産取引先サステナビリティガイドライン、ニッサン・グリーン調達ガイドライン改定と取り組みの要請 (P060) (P084) |
| 株主・投資家                | IR問い合わせ窓口、株主総会、決算説明会、IRイベント、取材対応、ウェブサイト、メール配信サービス                                            | ・日産の事業戦略、業績、サステナビリティの取り組みなどを含む企業価値向上         | ・株主、投資家とのエンゲージメント (P012)<br>・投資機関などとの個別エンゲージメント                                                                                                                                                                                                                |
| 政府・自治体・ビジネスパートナー・国際機関 | 問い合わせ窓口、共同研究、業界団体の取り組み、各種協議会、意見交換会、イベント                                                      | ・法令遵守<br>・実証実験など公共施策への協力<br>・共同プログラムの推進      | ・日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」活動 (P091)<br>・福島浜通りでのまちづくり貢献 (P091)<br>・横浜みなとみらい地区で自動運転車両での走行実証実験を実施 (P091)*1<br>・ノッティンガム大学でV2G技術実証プロジェクトを実施 (P041)<br>・交通安全未来創造ラボ (P074)<br>・UNDP「ビジネスと人権」プロジェクトの参加 (P070)<br>・GXリーグなど環境に関する政府、自治体との連携 (P059)                            |
| NGO・NPO               | 問い合わせ窓口、意見交換会、プログラム運営、イベント                                                                   | ・社会課題の解決に向けた協働や支援                            | ・アムネスティ・インターナショナル(本部および日本支部)と人権の取り組みに関する対話の実施 (P070)<br>・NPO・NGO6団体に会員として参加、意見交換実施<br>・スマイルサポート基金(7団体支援)                                                                                                                                                       |
| 地域社会・将来世代             | 各事業所問い合わせ窓口、地域でのイベント、工場見学、社会貢献活動、協議会、交通安全啓発活動、財団を通じた助成、ウェブサイト                                | ・地域社会への貢献<br>・企業理念<br>・日産のサステナビリティの取り組み      | ・おもいやりライト運動(点灯呼びかけアクション) (P074)<br>・各国にて従業員による教育機会を提供 (P090)<br>・リカジョ(理科教育助成)育成賞の授与(日産財団)                                                                                                                                                                      |

\*1 詳細はプレスリリースをご参照ください。 <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/250310-01-j>

・政治献金を行う場合は法令を遵守し、「グローバル行動規範」のガイドラインに基づいて、寄附を行っています。(2024年度寄附額：一般財団法人国民政治協会、3,700万円)「グローバル行動規範」の詳細はこちらをご参照ください。 [https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/LIBRARY/ASSETS/PDF/NISSAN\\_GCC\\_J.pdf](https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/LIBRARY/ASSETS/PDF/NISSAN_GCC_J.pdf)

## 株主・投資家の皆さまとの対話の方針

日産ではチーフ ファイナンシャル オフィサー(CFO: Chief Financial Officer)を中心に、長期的視野に立つ経営戦略や、競争力を強化するイノベーションの導入、最新の市場動向などの会社情報の適時・適切な開示と継続的なコミュニケーションを通じて、株主・投資家の皆さまと建設的な対話を行い、信頼関係の構築に努めています。

対話を通じて得られた株主・投資家の皆さまの質問や意見は、担当役員を介して取締役会および経営層にフィードバックされ、経営の参考にしています。また、決算発表準備期間中における情報漏えいやインサイダー取引を防止するため、四半期ごとの決算期末日翌日から決算発表日までの間は決算情報に関する対話を一切行いません。

## 株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

日産は投資家向けのウェブサイトを運営し、随時最新情報を開示するとともに、事業説明会では毎年、投資家・アナリストの関心が高いテーマを選び、各部門・地域のマネジメント層が積極的に情報を提供しています。

また株主総会をはじめとするさまざまな交流を通じて、株主の皆さまの意見に十分耳を傾けるとともに、疑問に対しても適切な説明をすることで、信頼に添えていきたいと考えています。<sup>\*1</sup> 第125回定時株主総会は、2024年6月25日に日産グローバル本社で開催し、インターネットによるライブ配信も実施しました。会場では625名の株主の皆さまがご出席、オ

ンラインでは1,221名の株主の皆さまがご参加されました。その他の2024年度の主なコミュニケーション実績は次の通りです。

### 2024年度の株主、投資家の皆さまとのコミュニケーション実績

2024年 4月 パワートレイン技術説明会  
2024年 5月 10月 日産デザインレビューイベント  
2024年 6月 社外取締役ラウンドテーブル  
2024年 9月 投資家向けサステナビリティセミナー  
2024年 11月 栃木工場見学会  
2025年 3月 投資家・アナリスト向け試乗会

日産への理解をさらに深めていただくため、今後もニーズに合わせた適切な情報開示を実施していきます。

## 社外からの評価

日産のサステナビリティに向けた取り組みは外部評価機関から高い評価を受けています。

### ・ CDP

環境分野の国際的な非営利団体であるCDPの「気候変動」と「水セキュリティ」の2部門で、最高評価である「Aリスト」企業に認定されました。「気候変動」部門では2013年度以降12年連続での「リーダーシップレベル」(「A」または

「A-」認定)、「水セキュリティ」部門では6年連続の「Aリスト」企業に認定となります。<sup>\*2</sup>



### ・ EcoVadis

サステナビリティに関する国際的な評価機関であるEcoVadis社による2024年の調査において、スコア66点(評価対象企業の上位18%程)を獲得しました。<sup>\*3</sup>

また世界的にその信頼性が認められた以下の代表的なインデックスに組み入れられています。

### ・ FTSE

FTSE4Good Index Seriesに引き続き選定、FTSE Blossom Japan Indexにおいても10年連続で構成銘柄に選定され、FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexへは、同indexが新たに設定された2022年より組み入れ企業として選定されています。<sup>\*4\*5</sup>



FTSE4Good

FTSE Blossom  
Japan IndexFTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

<sup>\*1</sup> IR情報に関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/IR/>

<sup>\*2</sup> CDP「気候変動」「水セキュリティ」の2部門で最高評価の「Aリスト」企業に認定 <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/250228-01-j>

<sup>\*3</sup> EcoVadisに関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://ecovadis.com/ja/>

<sup>\*4</sup> FTSE4Good Index Seriesに関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/ftse4good>

<sup>\*5</sup> FTSE Blossom Japan IndexおよびFTSE Blossom Japan Sector Relative Indexに関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan>